

三沢市 熊野

「おらどの家～たけじゃの教え～」

(一戸実さん)

1. 昔のたけじゃ

①たけじゃとは

私が子供の頃、今から50年ほどが55年ぐらい前の話だな。小学生ぐらいの頃の話だな。ちょうど戦後って言われるあたりのごとで、比較的記憶あるんだよ。周りから「一戸、おめーはよくそんなごど覚えでるな」と言われるんだけど、まあ自分でも記憶があるほうだと思ってるだよ。

今、ごとは「六川目(むかわめ)」っていうけど、昔は「高井沢(たかいざわ)」って言ったっていうのは、あんだも知ってると思うけど、なんで「高井沢」っていうのが、なんで「たけじゃ」どが「たげじゃ」って言うのが知ってる？

昔この辺は水がものすごく豊富で、川にも水がいっぱい流れてだんだよね。それが高くて沢みたいになってるっていうことで、高井沢っていう名前になっただけ。ちなみに、山のほうに「高野沢(たかのさわ)」っていう部落あるでしょ。あそこはさ、農地改革とかで高井沢の二男とか三男が移っていったわけ。それで名前も一文字だけ違って「高野沢」っていう名前なんだよ。

その「高井沢」なんだけども、まず「沢」のことをこの辺とか十和田とが訛って「じゃ」っていうんだよ。十和田に「八斗沢」っていうところあるの知ってると思うけど、そこの人たちは「はっとじゃ」って言うんだよ。

「たけ」は、この辺で高いてことを「たげー」って言うべ？そごからきて「たけじゃ」とか「たげじゃ」って言って訛って言うようになったって話だよ。

②子供の頃

昔は、世帯も多いし、世帯が多いことは人数も多いし。一つの家族にしても、兄弟がたくさんいて、私は3人兄弟だけどそれでも当時といたら少ない方で、自分たちの年代でいったら7人ぐらい兄弟がいるわけさ。そうすれば、同級生の姉と自分の姉が同級生だ、そのまた上の兄弟も同級生だというのがあるわけさ。2つ3つ離れた兄弟が、「本家」と「かまど」だけでもいっぱいいるわけだ。そのくらい家族も多いし世帯も多いしというようにごどで、それはここばかりじゃない日本全国でそうだったっていう時代だったわけだね。

それで、子供の頃の遊びってばさ、浜が今に比べてまだまだ遠かったわけさ。遠いって言っても自分が小さかったせいもあると思うんだよ。確かに小さかったせいもあって、昔あそこの家の前に行くとき広いなと思っていだのが、今行くとき小さく感じるわけさ。子供の見る目と今の見る目と尺度が違うけども、浜は遠かったあ。うん。

遊ぶ場というのはさ、生活自体がごど(浜)で、漁師で栄えてきた地域でしょ。岩手と

が七戸、三戸、五戸のほうから鯛を求めて来て、ここに集落ができたっていう。だから浜が生活なわけだ。親が浜さ行けば子供も浜さついて行くわけさ。当然元気な子大きい子だちは船に乗ったごともあるけども、そうでない人は浜で遊んでるわけさ。様々様々遊んでたわけよ。

まあ簡単に言えば四角の木で、親分が角にいで、それこそ途中を子分を倒していって、最後主と戦って陣を取る。そういう風なことを浜でしょっちゅうやってる。

あど、ここは昔は鉄が取れた。砂鉄ね。鉄取るためにはポンプで砂をかいて砂鉄を取って、大きい穴できるとそこに水が溜まって、そこで泳ぐわけだ。それもさ、今なら危険危険って言ってダメだけれども、それが泳いで当たり前なわけだ。すごい深いんで。いぎなり深いから。

それで、私の知ってるのでも1名亡くなった人はいるけども、それも子供の人数からいけば、死んでいってわけじゃないけども、事故率っていうのが非常に低いわけだ。

あどはさ、映画見たくても映画館さ行けないわけだ。街に映画館あっても遠くて行かない。交通手段も無いし、何より金が無いんだもの。

そうすればさ、月に1回どが出張で映画が来たわけさ。テープとスクリーン持って、小学校の体育館を周って来るわけ。入口でさ、木戸銭を35円払ってさ、並んで体育館に入って行儀良くして待って、それで観るわけよ。部落の人で満杯になるわけさ。

今、映画館で映画観て拍手するってないでしょ。当時はさ、終わればみんな拍手なんだおん。昭和39年には中学校で1回観た記憶もあるけども、それも終われば拍手なわけだ。それくらい楽しみにしてだし盛り上がったわけだ。

③仕事(漁、畑)

55年ぐらい前だと、家は海側に多かったけど、うちもこっち側にあったしけこう山側にも家はあったなあ。ただ、その前は海のほうの一体に家が多かった。生活圏があっただごどで。

その頃、畑もあった。

畑もあったけども、生活体系が浜にあるもんだから、例えば畑に行行って仕事してでも、ごく最近、私が仕事してからだから42、3年前でも、魚が取れたよっていう合図の方法があるが、その合図があると畑の仕事を捨てて浜に来るわけだ。

その合図っていうのが、ちょうどごどを下がって浜に行くでしょ。その浜さ行く前に林があるよね。そごの近くに森があって、それはマネ森という森なわけさ。高いごこなさ。

そのマネ森というところに、木でできた竿というか柱がごどと5本がな。うん、5本は立ってだ。網のグループが5つあるわけさ。私のところはヤマヨ協同、それからムラミ、カネイチ、カネトモ、ハツボシってこう5つの網のグループなわけ。これは必ずしも親戚ではないよ。まるつきり関係ない人も入ってるけども、まあ5団体あって朝になると船が出で行くわけだ。船で出で行って網をしかけるわけだけれども、魚が入ったよーという

とき、5本の柱は一番端っこがウチだどがって決まってで、もちろん旗の色も違うけども、今みたいに高い家は無かったし、松林よりこっち側だから旗が見えるわけさ。

へば、「三番目上がった。おらほの船だ。魚入ったず！」ってなって、山から浜に魚をあげに行くわけだ。おらほ魚入ったっていうところがあれば、おらほまだだずってとごろもあつたり。それはごく最近まで、そうだったな。

魚いっぱい獲れたら、魚を干して肥料にしてあるいは煮て肥料にして、丘のほうの魚獲れないほうにやって、米なり食べ物なり物々交換、そういうごどもしてだ時代なんだろうけども。

その後は、ニンクだとか様々金になる作物が出てきたがら浜に行く人も無くなつたけども、もともと畑は魚があがるのを待ってる間にやる仕事だったんだよな。

そもそも畑なんて、あるのは菜種（なたね）とじゃがいも。菜種って菜の花のごどな。菜種は油取ってたんじゃなくて、業者さ売るわけさ。昔はもうこの辺全部菜種といもだけなわけ。田んぼがあつたのは当時ほうちだけだったみたいで、あどはながつたなあ。酪農やった人とかもいだけどね。

お盆前、7月に入って梅雨が明けるが明けないが頃かな、菜種刈りという風なごどで、学校も休みだったわけさ。休みどいうよりも手伝えと。今でいうアンケートを学校で取るわけ。一戸の家はいつ頃菜種刈りだ、そっちの家はいつだという風なごどで、調査っていうのがな、それをやってほしい5日なり1週間菜種刈り休みと。稼げということで。

さっき言ったみたいに、この辺は田んぼが無かったがら、稲刈りで休みどがは無かつたけども、菜種刈りは休みあつたな。

自分の家の手伝いが早く終われば、今で言うアルバイトが当時で300円。あんたんどこにも行ったのは中学校の時だったかな。中学生の時で300円だったがあ。私、電気スタンド欲しくてさ、5日間歩いて1,500円。電気スタンド欲しくて欲しくて、当時あつた電気屋で買った記憶があるんだけど。それも、よぐ一戸覚えでるなって言われるけども（笑）

その後、食料危機とかで改田改田ってなつたのが昭和33年頃だったんでねえの。イगतとか仏沼も改田やったわけだ。今度はそうしているうちに減反が始まったでしょ。

あどはさ、あんたの曾おじいさんどがもそうだと思うけど、昔の人は北海道の松前どがの鯨場（にしんば）さ行ってたんだよ。鯨漁な。昔はものすごく獲れだつていて、この辺からもたくさん行ってだんだよな。

帰ってくる時には、お金もだけど缶に入った鮎だどが筋子だどがば持ってきてな。鮎ってば煎餅に付け食べる鮎のごどな。当時は甘いものなんてながつた時代だったがら、もう貴重品なわけさ。そうすれば、それを隠れて食べたりしてさ、そういう時代だったんだよなあ。

④昔のたけじゃの街並み

たけじゃに、たつた無がつたのは郵便局。郵便局は無かつたけど駐在があつたべ、役所の北部支所というのもここにあつたし。今の屯所があるどごろにね。簡単なごど、住民票の発行どが出生届の受付どが簡易なところをやってだと思ふだけど。六川目には何でもあつた。

寮どがあるがら必要になつてくるわけさ。だから、その頃は住んでる人も多がつたね。昭和30年代の前半の頃だべね。本屋、呉服屋、自転車屋、何でもあつたね。他がらごどに買いに来るんだおん。ガソリンスタンドも。

本屋さんに、織笠（隣の部落）どが他がら買いにくるんだよ。こっちに買いに来るべ。それを待ち伏せで、「えが、わあに勝つど？やるが？」ってなもんで、ケンカになるわけだ。逆に、私だちが織笠にドン米作りに行けば、今度はごどでケンカになるわけだ。それがまあ遊びだわけだ。それが同じ中学校に行つて仲間になつてさ（笑）

旅行あるって言えば、服屋に行つてちょっと新しいの買ってね。だから、六川目はひらけでらつていうのがな、垢抜けでらつていうのがな。金あると、おもちゃばかりでなく本こ見たいって言えば本も買えるし、それよりも金あれば学校にも行けるしつていうごどで、どっちかと言えば六川目の子供だちは頭っこいいつてね。もちろん人数も多いだろうし。

そういえば、あんたんどごは旅館って呼ばれでらつたの知つてるがな。旅館っていうが、来た人泊めたり下宿みたいなごどをしてだわけだ。この辺ではそれをわかりやすい言葉で、旅館旅館って言つてたわけだ。それが屋号みたいになつてるわけだ。用足しあつて旅館さ行つてこいって言えば、あんたほうのごどだったんだよ。

今でも80歳90歳の人にたけじゃで旅館ってつて言えば、あんたほうだつてわがるごどで。

⑤街の変化

この辺で砂鉄取つたででしょ。今もその名残りがあつて建物があるんだけど、それがもっと当然大きくて、そこにニッソーという会社、正式な名前は書きもの見なきやわがないけども、縮めてニッソーという会社が来てさ、砂鉄を取つたわけさ。それで社宅があつたわけ。

それで、当然会社が来るつてことになれば従業員を見つけなきやなんない。そうすればやっぱり地元の人をというごどで、農家やりながらそこに勤めると。そういうごどをやってるうちに、農家より少なくとも決まった金が入ってくる。農家だと、例えば田植えしても秋でなきやお金が入らない、菜種は去年蒔いで今頃採ると。生活のためには勤めだ方が、決まった金が入つて、苦勞するだろうけども農家やって漁業やってというよりは、農業が副業みたいになつてしまつたわけさ。

だがらこの地域が、この辺では勤め人が多いと。あんたのおじいさんもそうだったけども、80歳とか90歳の人だちで、そういうところに勤めて年金もらつてるといふ人だち

がいるわけさ。

それが今度、こごばかりじゃなくてよそに出る、八戸のほうに行く、銀行に入って働く人が出てくる。そして、中学校より上の学校に進学する人が出てくる。そういう人が増えてきて、そういう人は教育受けでくるとながら勤めるのがいいってことだね。それが今度自分たちの年代になってきて、長男だから家にいながら仕事に通いながら農家を手伝ったり漁業手伝ったりという風なことで、特に六川目はそういう傾向が強くて。山のほうはそういう仕事が無がったがらね。

三沢高校が準優勝した時、テレビで応援してたんだけど、勤め人にはさ金が入ってくるわけだ、農家よりはさ。やっぱり、そういう人たちの家庭がテレビ付けるのが早がった。あどは、給料もらってる人の他に商売やってだ人、ガソリンスタンド、建具屋さん、自転車屋さんとか商売やってだところも早がった。

乗り物もそうだな。仕事に通うのに、バスとがで通ってだんだけど、道路事業が悪いがら淋代（2つくらい隣の部落）で止まるわけさ。特に春先になると抜かるんで、バスなんか走らないわけ。バスに乗っても着がねえんだもん。乗ってみねえばわがねえわけよ。今度そこからテコテコ歩いてくるわけよ。それがごく普通で、最近まで、昭和45年頃までだな。それまでは、そごでスケートもやってだからね。八戸の長根リンクまで行けないわけだから。

それで、その頃に国道が舗装されて、勤め人の人が商売してる人が車を買うようになったわけさ。所得倍増っていうのがな。高度経済成長さ乗って、平のサラリーマンでも車買えるようになったわけさ。あどは、サラリーマンばかりでねえ、中央のほうで建物を建てなきゃなんないってことで、こちから出稼ぎに行ったべえ。そうすれば、金持ってくる、へば手っ取り早いのが車だ。若いのは車買って遊びに歩く。まあ、日本全体がそうだったべ。

ただ、そうなれば、そのままそちに住む人も出てくる。今まで家族が7人もいだったのが、こちに來たって仕事がない。そのまま向こうに住んで仕事して結婚してってパターンでしょ。海に出る人も畑に出る人もだんだんといなくなる。入ってくる金が速うんだおん。生活するには金ねえばねえんだもの。魚獲ってでも採算取れねきゃ。

⑥災害（十勝沖地震）

三沢で災害って言えば三沢大火だけでも、それはこちは関係ない。その何年後だったかな。三沢高校が甲子園で優勝した年だったか、その前だったか。十勝沖地震。強かった。揺れは確かに強がった。その時私は畑にいで、まだ仕事についていながら。

揺れが強くて、家に帰ったら家のものが全部落ちて、津波もこちのほうまでくる津波ではながったがら、それで人的被害もない。ただ、当時、田植えが終わったところなんかは、苗が揺れて、植えた苗が田んぼの中で偏ったり、そういうのはあったなあ。

⑦災害（東日本大震災）

私その時、不幸事あって津軽のほうにいだんだけど、地震から1時間くらいたって、これはただ事でないと思って、仏様に許されてこちに帰ってきたんだよな。国道は通行止めだったけど、まあ何とか帰ってきてさ。

帰ってきたら、やっぱり想像以上で、これまで先輩たちがら地域の人たちがら聞いてだ昔の話より凄い状況だったのね。これとは思ってね、こち来てがら話聞いたら、小学校に避難してる人がいるどが個人的に避難してる人がいるという風なことで、とりあえず小学校に行ってみだ。

行ってみたら、六川目ばかりでない織笠、塩釜、細谷なんかもいで、地域によってムラがあるから、これは仕方がないごなんだけど、みんなみんな冷静さを失ってるのな。もう自分の考えばかりの人が多がった。ある地域の人たちに特に多がったんだけど、これだばダメだなと。

避難している人の中でも、弱者っていうのがな、女の人、子供、高齢者の方含めてそういう人たちっていうのは不安なわけだ。いつまでこにいなきゃならないのが、電気は来ない、食料はないという状況で。

消防団もいだったけど、こういう人たちどが若い人たちは色々活動してもらえれば大丈夫だなと。とにかく、避難してる弱い人たちがら不安がらなくて安心して、こは大丈夫だよと一晩でも二晩でもいられるようにするごを誰がやねばなんねえと思ったの。

それで、周りはみんな仲間だから、そのみんなを見てだいたい性格どがもわかるから、いい言葉で言えば心のケアっていうのがな、これは俺しかいねえなど思って、とりあえず落ち着かせるに、「今、こういうごやってるがら、情報だとも津波も心配ないみたいだがら。時間はどれくらいかがるがわがねえけど、今日は泊まるよ」「町内の人たちが今頑張ってるがら、消防団も頑張ってるがら」と。

「ご飯ももしかしたらみんなと一緒に配れないがもしれない。災害のテレビどがで、わあさご飯こねえどがいうの親たごあると思う。ご飯が足りない、ジュースが足りないどがいうごもあるがもしれない。でも、そういうごは言わないで、必ず順番に渡るがら」と。そういう感じで話していったら、だいぶ違ったね。

こういう時は、あれも必要だどがこれも必要だどが、ガヤガヤガヤガヤだわけさ。北部地域全体の責任者も決めておけば良かったんだけど、自分勝手に行動する人が多がった。動揺してしまってるんだべ。経験したごがないがら。あどは、昔から聞いてる話で、「こごまでは津波が来ねえんだじゃ」と思って日常生活してきたがら、混乱して。

そうなると、あそごのぼっちゃどごさ行ったべどが、孫どうしてらべって、色んな心配するわけだ。これじゃダメだがら、落ち着かせるのが俺の仕事だと思ってね。

そうしてるうちに、食料来たりご飯の準備できだりしてね。それでも、役所から人が来ると、「役所は何やってらっきゃ!!」だべ。

だがら、いやいや待と。これは市内全域なんどと、こごだけじゃねえと。市長何や

ってらっきやどが役所何やってらっきやって言っても、市内全域をそうそう対応できるもんでねえんだ。幸いケガ人も誰も出でないが、ケガ人を出さないように、次の災害来たら避難できる体制だけは取らないばダメだよ。そうごどを会議したりした時にしゃべったりしてただけでもさ。それでも落ち着かない人どもいるもんね。

その一方で、うちの避難所だけ、ここだけが自分たちで米炊いたり食べるのを自分たちで作ったんだよ。あちこちから運ばれてきたのもあったけども、農家ってのはどこの家でも食料は多く買っておぐし、米はあるし野菜はあるし。まだ、店にしても知ってる店だから、つけにして食料持ってきたりして、それはまだ田舎のいいどころさ。農家だから食べるものは集められる。ガスは学校のを使う。そうやって煮炊きしたったね。

あどはさ、他の避難所は体育館を使ってただけでも、うちは教室を使ったの。まだ寒い時期だったからさ、教室をある程度地域ごとに指定して覚えだ人たちが一緒にいで、暖房も農家だから小屋に反射式のストーブ持ってる人がいで、それを教室に置いて。体育館だば広くてダメだけど、教室だばそれで暖かくなるがらね。

それど、でっかい発電機持ってる人も農家にはたくさんいるんだよね。にんにぐどがに使うの。それ持ってきて使ったりさ。

ただ、六川目は他の部落に比べて勤め人が多いがら、あんまりそういうのが無かったな。他から持ってきたのを使ってた。

まあ、そうやって過ごしたったね。

⑧部落の繋がりが

当時は、物も今みたいに裕福にあるわけでない。浜がら獲ってきたものを食べる。家の前で野菜作って、作ったものを隣近所に食べてくれって持って行って、持っていけば持ってきてくれる。今みたいに甘味がない。当時は、甘ければ「あー、うまい」って食べだもんでしょ。そういうのもながったわけだけども、どごもそうがもしれないけど、今に比べて繋がりが強かったべね。まして、本家・かまどって言えば何があっても、かまどは本家のために頑張ると。かまどで何かあれば本家が行ってやってあげると。そういう絆っていうのは、今に比べれば全然全然、太いロープで繋がってるわけさ。

小学校にしても、確かあんたのお父さんだちだと1クラスだったかな。その下は2クラス。1クラスの学年は40人くらいで、2クラスのごとろは30人ずつぐらいだったはずだ。それが今は1クラスしかなくてほしい20人ぐらい。それもごごだけじゃなくて、北部全体で20人だから、かなり少ないよな。

ちなみに、ここは今世帯数が町内会に入っていないとごろも入れてほしい200。そのうち子供がいるのはたったの18家族。全体の1割くらいだよな。しかも、当時は子供の数が多かったけど、私達の親は、この子供はあそこの子供だよと7人覚えるわけ。隣も7人覚えるわけ。いわゆる町内全体の子供を100人いでも200人いでも全部覚えてるわけさ。

今は、18家族しかいないのでも、「あれどごの子供だべな」って。私はよく学校行事どがに行ぐんだけど、それで名前聞けば、これあそごの子供だってわかるけども、道路で行き会ってもどごの子供だかわがらんない。

子供も少ない、世帯も少ないわりには隣近所の付き合い、今でいう絆っていうのが無くなってきてるなあ。

2. おらどの家

①出前講座

私、PTA会長をやらせでもらってで、学校に行く機会も多かったわけさ。職員室に行ったりすると午前中いらさったりしたごども何回もあるがらね。そしたら先生が「今、社会の勉強で昔の暮らしみたいなのがあるんだけど、昔のものが無いがな」と。それで、あるよっていうごどで。そしたら時間ある時にそういうの持ってきて、子供たちに昔のこの地域の遊びとか暮らしとか、ちょこっと話っこしてけねがべがと。ちょうど地域と学校がこういうことをやっていかなきゃいけないっていう教育の方針になった頃だと思っただけ。

それで学校に2つ3つ持って行って、例えば、火箸っていうのはこういう風に使うんだよ、こういうもんなんだよというようなごどを、2年か3年ぐらいやったのがなあ。

そのうちにおらどの家を作ったんだけど、それまでは私が出向いで行って、いわゆる出前講座よ。何あれ、仕事もしねえで何やってるのよって言われるがら黙ってやってだけでも、出前講座の先がけみたいごどをしたわけよ。

②おらどの家改装

学校に行ってるうちに、毎年同じの持って行がれないべし、軽トラどが持ってないがべし、車に積めるものとなれば限られるべし。そうしてるうちに、当時は父兄もいっぱいいながら、「学校で昔のこととかやってるんだけどみんなのどごにもなんかねえが。俺のは限られてるんだよ」って言ったら、あるあるあると。そういうふうなごどで、水瓶持ってきてくれる人がいたり、様々持ってきたわけさ。

そうすれば、置ぐどごねぎゃっか。農家もやってるし、置ぐどごがない。メンコんどぼポックに入れて遊び教えているうちはまだいいんだけど、置ぐどご無くなって困ったなって。一生六川目にいなぎやなんねえがべし、下の子供もまだ小さいがべし、学校どは縁は切れねえなど。

困ったなっていって、たんだ物置こさえてもただ置ぐだけになってダメだべし。そんなごどを飲みながら話してたら、なあに元に戻すがって言うのよ。いやいや、今、車庫どが物置に使ってる昔の家を元に戻すたって、3万や5万で戻るんだばいいんで。新しい家建ててでがら車庫にして壊さないで使っただがら。でも、元に戻すがっていうごどにな

ったわけさ。

で、最終的にはこうなったんだけど、当初は2年でやる予定だったの。2年がかりでやるがど。ところが、とっついたら毎週毎週人が集まってきた。自分も、出来るところは自分でやりたいと思って電気付けたりさ。そうして晩にやれば、まだ人が来て手伝えと。だからこれは本当に全部手作り。囲炉裏も全部手作り。そうやって結局6ヶ月で出来た。それからまだなんぼがやった所はあるけども、まあこれは6カ月で完成させたわけだ。

ここは、出来るだけ昔の暮らしに。確かにまるつきりこうではながったよ。んだけど、昔はこうだったという風なごどをやるのに、こうやれあやれって設計組んだわけさ。畳の部屋は昔のまんまだけど、こういう形にして、今度は物の配置だ。この辺は貧乏だったから、今置いてても無がったものもあるけどもな。

あどは、木の枠で囲んでる囲炉裏みたいなの、それは鯛釜なんだよ。昔は魚が上がっていえば、持って帰ってきた鯛をその釜で炊いだわけだ。だいたいごの家にもあって、それで鯛炊いた後に洗って、お湯沸がして風呂にして入ったの。熱くてな、入るのにコツがいるんだよな。

あどは、その帯戸。これも見付けできたやつだけど、昔はもつともつと鉛色だったの。囲炉裏から出る煙で燻されて、それを女の人が毎日水ぶきするの。ただの水ぶきだけでも、こういう鉛色が出る。これも何十年もそういう生活してねえば出ないんだよね。

床も、これは元々はただの木だけでも、それだばダメだから、木を焼いて燻してそれを床に敷き詰めてるんだよね。

③おらどの家での勉強

おらどの家が出来て、学校さ行がなくても良くなったわけさ。こういうの作ったがら、子供んどはごどさ来ればいと。子供たちが町内を歩きながら覚えながらごどまで来るのが、勉強の始りだわけだ。

まあ、毎年来るといわけではないけど、先生によって、あとは学校の日程もあるだろうし、来ない時もあったけども比較的来てるね。今は、おおぞら小学校になったがらね(三沢市北部地域の5小学校を閉校し、数年前に統合)。前は六川目の、高井沢のごどだけ話せば良がったんだけど、こうなるとたげじゃのこどだけ言ってもわがんないわけだ。

谷地頭どうなのどがなったり、場所も少し遠くなって間が開いたこともあるけども、まだ学校に行く機会があったりして、こういう所が六川目にあるぞという話になって、六川目の学校からおおぞらに行った先生もいたりして、3年生4年生が社会の勉強で来たりしてるわけだ。

子供だちが来て座れて言えば、まずごどでも座るわけだ。そうすれば教えの中で、あんただちはごどでも関係なく座ったけども、それぞれの家には決まった座った場所があるんだよと。家で一番偉い人誰だあと。おじいさんいないとこも、おばあさんいないとこ

もある、色々あると思うけど、おじいさんがいればおじいさんの座る席はごどだよと。お父さん、お母さんはごどだよ、あんただちはごどだよと。

子供が7人もいれば、当時はお父さんよりもおじいさんの次はごど(長男)だよと。おじいさんがめんこがって、膝の上に抱くわけだ。寒いがら犬の革を着てさ、膝に抱いでさ。そういう風に座る場所決まってるんだよと。

もし、あんただちが学校で悪いごどすれば、おじいさんがもう火箸をパチンパチンと鳴らして、悪いしてそごに座れば、叩がれてたんだよと。これ持ったら、叩がれるがもしれないから、ササッと逃げねばダメなんだよと。ボサツとしてれば、いつから叩がれるんだよと。

こういう風な家庭の仕組みというのが、そういうのをみんな座らせて話してさ。六川目小学校の時は、この囲炉裏で餅焼いで食わせたりもしたけども、今は人数が多くなってそういうごどはしてないけども。そういうごどをやってさ。こういうものも、先生でもどういものかわからないものもある。そういう生活してないから仕方ないけどもね。

囲炉裏の上に木を組んで、汚れた上着とかをそごに掛けて乾がしたりさ。シャツなんかも干したりさ。

いわゆる「たげじゃの教え」をさ、良いとか悪いとか別にしてさ、教えでらったわけさ。当時はこうだったんだよとね。

3. たげじゃの歴史を振り返って

まあ、日本全国が裕福になっていったんだね。今はね、こういうものというのが、古いものがブームだがみただけど、裕福になる中で全部捨てていったんだべな。ただ、当時のごどを言えばさ、こつたら古いものさかまってる場合じゃなごつたんだおん。稼がねばなんねがったんだもん、稼がねばさ。

それに、どつたらに私が物を集めても、みんなが持ってきてくれても、まだ、こうやって家作って色々やっても、これはやっぱり偽物なんだよね。どうやっても、もう本物にはできないし、本物は無い。

ただ、こういう古いものに目を向けれるのが大事なだべね。私はたまたま学校との関係の中で、物が集まってきてこういう風にしてるけども、まだやりたくてもながなが出来ないんだおん。まださ、これだつて私が死ねば、ただのゴミになる。娘は、この中で一番価値があるものはなんなの、なんて言って笑ってるけども、でもゴミなんだよ。そうやって古いものが日本がらだんだん無くなってしまふ。大変だ。

でも、ここは「わあの家」じゃなくて「おらどの家」だからさ。残していくべ。

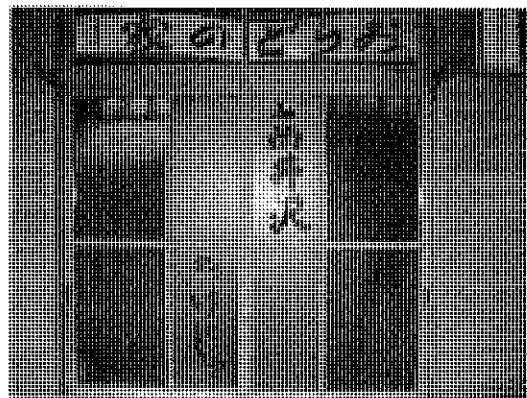
ごどにさ、たげじゃの人たちが集まってきて飲むわけよ。最近では、ここじゃない他の部落の人が来て集まったり、他の町とか村から来て、懐かしいな一つ話していぐ人もたくさんいる。いづでも来て、酒飲んでしゃべって。一番多い時だば、この狭いごどに50人も入ったごどもある。

あどは、今、自分のどごの田んぼにホタルを増やしたくてな。去年、看板まで学校の先生にお願いして作ってもらったんだけど、結局10匹くらいしかいなくて看板掛けるの恥ずかしくてやらなかったんだよ。今年はホタルでいっぱいにして、子供たちに見て欲しいなと思ってるんだよな。

住んでる人の数も子供の数もずっと少なくなったけども、子供たちがごごにきて、たけじゃって昔はこういう所だったんだな、今はこういう所なんだな一と思ってくればそれでいいし、たけじゃを知らないたけじゃの人にもたけじゃを知ってほしいし。

今は、三沢の人どころか六川目に住んでる人でも若い人は「たけじゃ」を知らない人が増えてるんだよ。だから、私はあえて「たけじゃ」って言うようにしてる。わがってるがどうがはわがんねえけどな（笑）

「おらどの家～たけじゃの教え～」



部落のちょうど真ん中あたりにある「おらどの家」。
もともとは古い家を車庫や物置として使っていたものを改装したものです。
たくさん集まってくる古い物や昔の物を保存するための改装が、部落に住む仲間たちの(無理やりな)発案で、昔風の民家として改装されることになったとのこと。
高井沢とは、今は六川目というこの部落の昔の名称。それが訛って「たけじゃ」と言っていたそうです。ちなみに、「おらど」とはこの地域の方言で「俺たち、私たち」という意味です。この地域に住む人たちみんなの家であるという思いが込められています。
今は、地域をはじめ多くの人たちが集まり、酒を飲み、語り合う場として使われているそうです。



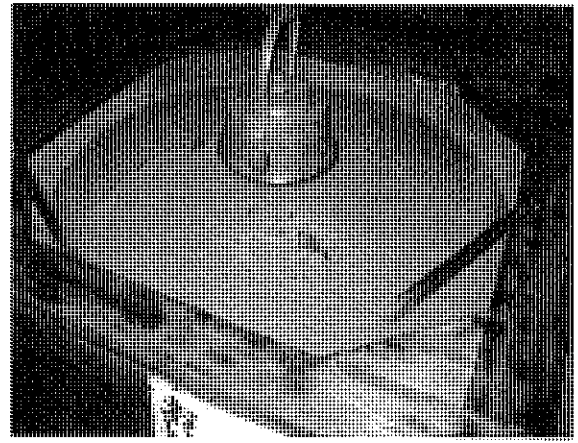
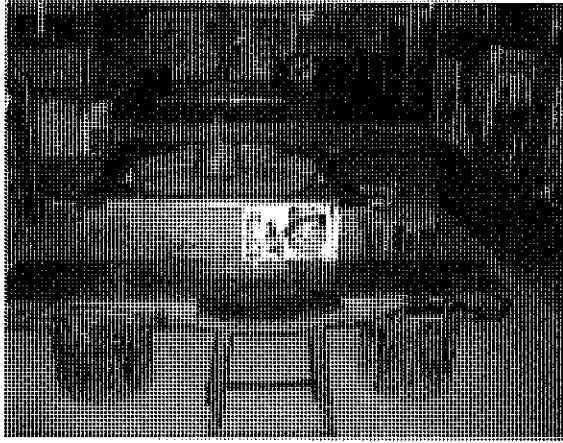
「おらどの家」に入ってすぐに目に入る看板(左写真)。「あずまし」とは「居心地がいい、じっくりる、落ち着く」という意味の方言です。地域の人たちのそういう場でありたいという一戸さんの気持ちだそうです。

ストーブ(右写真)も懐かしいです。私が小さい頃には、まだあちこちの家にあっただという記憶があります。

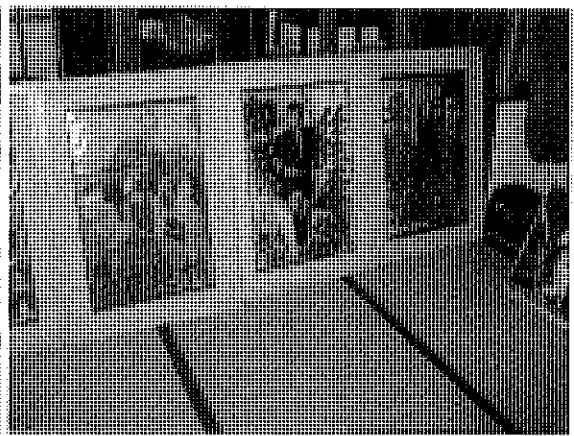
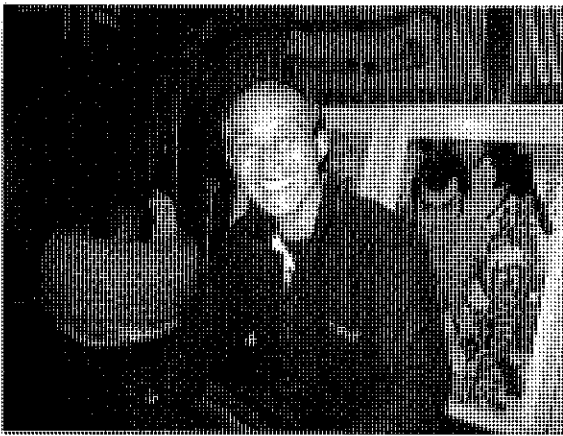


当時の生活を知る上で貴重なものがたくさんあります。脱穀機などは私の家にもあったという記憶があります。大根が干してありますが、最近ではあまり見ない光景です。

今は、子供たちにホタルを見せたいという思いで、色々と勉強されているようですが、なかなかうまくいかない。今年こそこの看板を立てて、いっぱいホタルを子供たちに見せるんだ、とおっしゃっていました。場所は、自分の田んぼだそうです。



入口入って正面、囲炉裏風のテーブルとイスがあります。
オロナミンCの看板が懐かしいですが、鰯釜を囲って作った囲炉裏です。昔はどこの家庭にもこの鰯釜があり、鰯を煮る他に、五右衛門風呂のように使ったそうです。
この場所と奥の囲炉裏、カウンター、畳の部屋などに、最高で約50人の人が集まり宴会をしたそうです。200世帯しかないうちの50人ですから、かなりの人数です。



こちらがお話を聞かせてくださった一戸実さんです。
同じ地域の出身ですが、このような活動をしているということは最近まで全く知りませんでした。
小・中学生の時に、学校の体育館で観ていた映画を懐かしく思っていたところ、たまたま上京した時に、当時の映画のポスターを見つけて購入し、ご覧のとおり「おらどの家」に飾っています。
この家を訪れた方は、必ずこのポスターのことを聞くと楽しそうにお話していました。



この囲炉裏も床も、全て手作りだそうです。昔の雰囲気を出すために、床板は火であぶったりしたそうです。床や帯戸(右側写真の左側木戸)などの飴色は、毎日拭くことで磨かれて出てくる自然の色だそうです。

ここに子供たちを座らせて、色々な話をしたりするそうです。人数が少ない時には、実際に囲炉裏で餅を焼いたりして振舞っているそうです。



囲炉裏の上には、様々な物がかけてあります。

買ったものもあれば、地域の方が作ったものもあるとのこと。

奥の方に見えるものは、昔の消防団や火消が着ていたもので、かなり古いものです。その当時の消防団が被っていた帽子のようなものもありました。今となっては貴重な物です。

また、囲炉裏のある部屋の隣に畳の部屋があり、こちらにも昔の着物などをはじめ、色々な物が置かれています。



左上の写真はキッチン兼カウンターです。コップや皿といったものは揃っていて、ガスや水道もあるので、人が集まればすぐにでもお茶を飲んだりお酒を飲んだりできるようです。

その他にも、ポスターなどが多数貼ってあったりで、タイムスリップしたような感覚。地域の人だけではなく、市内外のあちこちから多くの人が出てくるそうです。

